

愛媛高品質真珠製造技術開発事業

— コーティング核の作製方法の検討(R7~9) —

愛媛県産業技術研究所 食品産業技術センター 主任研究員 石井 佑治※1
紙産業技術センター 主任研究員 藤本 真人※2
企画管理部 主任技師 菅 忠明

アコヤガイ *Pinctada fucata* を用いた真珠養殖において、挿核後の細菌感染による斃死および核の脱殻は、生産効率を低下させる大きな要因です。

本研究では、高品質真珠の生産効率向上を目指し、CNFと抗菌剤を複合化したコーティング核を用いて実地試験を行いました。

【令和7年度 実地試験結果】

令和7年度 実地試験結果

R7.6月~R8.1月まで

	挿核数	生残数	生残率	製品珠		クズ珠		製品率	
				1級	2級	3級	脱殻等	1級	2級
無処理	260	160	62%	13	31	76	41	5%	12%
コーティング核	250	177	71%	24	51	59	43	10%	20%

CNFと抗菌剤をコーティングした核を用いて実地試験を行いました。

コーティングの効果を確認するため、処理を行わない核を比較対照としました。

コーティング核は無処理と比較し生残率・製品率ともに高いことがわかりました。



核入れの様子



1級

2級

3級

【特許出願】

特許の名称： 真珠核の製造方法及び真珠核並びに真珠核コーティング剤
(特願2025-109970)

出 願 日： 令和7年6月30日

令和7年度の実地試験ではCNFと抗菌剤をコーティングした核が無処理と比較し生残率・製品率ともに高いことがわかりました。本結果を基に抗菌物質とCNFを複合したコーティング液を調整し、継続して実地試験を行い生産効率向上を目指します。

本研究は、令和7~9年度 愛媛高品質真珠製造・評価技術開発事業により実施いたしました。

※1 現 農林水産研究所 水産研究センター

※2 現 経済労働部産業創出課